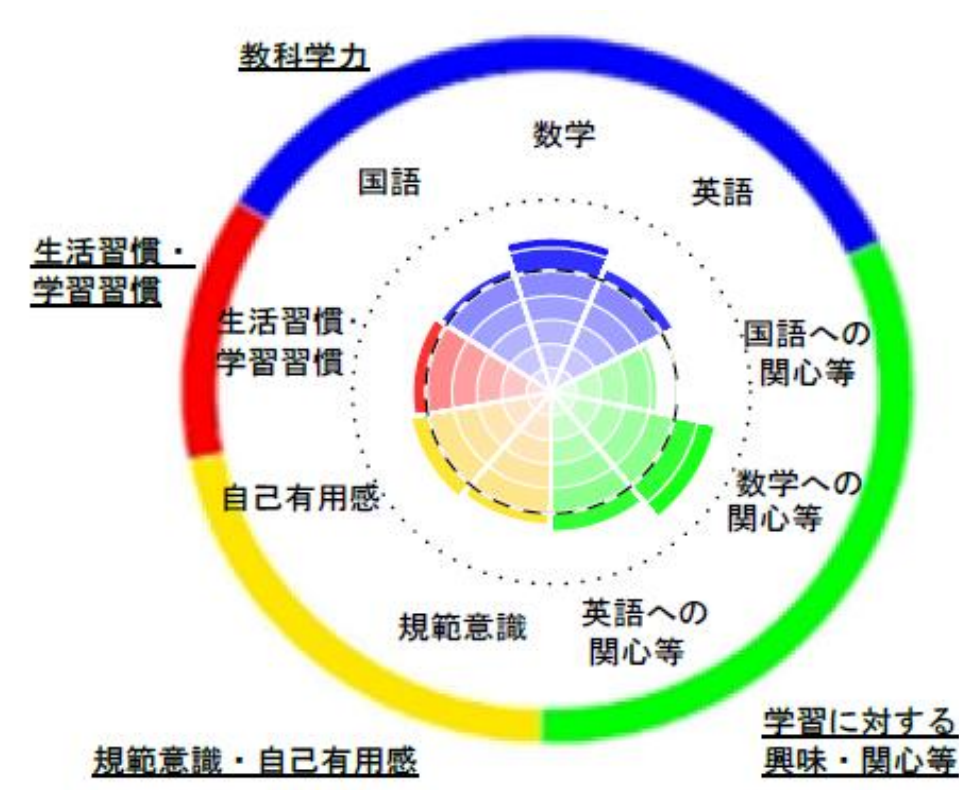


(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策
国語	○ほとんどの領域において全国平均、島根県平均を上回った。特に書く能力、言語についての知識・理解・技能が定着している。 ○韻文を読んで感じたことや考えたことを書いたり、原稿の内容に適切な文を書き加えたりする力が定着している生徒の割合が高い。 ●他の領域に比べると、文章の内容を的確に読み取り、要約することにやや課題がある。 ●国語への関心等が全国平均より低いことが課題である。	・授業において、短い文章を読んでキーワードを見つけたり、その内容を的確につかんだりする機会を増やす。 ・比較的ボリュームのある文章を読んで、段落ごとに要旨をまとめたりする機会を増やす。 ・国語への関心を高めるために、状況に応じて学習形態や課題の提示の仕方などを工夫する。
数学	○全ての領域において全国平均、島根県平均を上回った。特に数と式の領域で、問題文の中で表される式の意味を正しく読みとる力が定着している。 ○反比例の式を求める、連立方程式を解くなど、数学的な技能の力が定着している生徒の割合が高い。 ●他の領域と比べ、関数の領域が苦手な生徒が多い。文章、式、グラフの読みとり課題がある。	・授業において、個で考える活動、ペアやグループの形態で考える活動、全体で発表する活動を状況に応じて使い分ける。 ・数学的な用語や問題文の中の言葉を使って、文章、式、グラフから読みとれることを説明する機会を設ける。
英語	○すべての領域において、島根県平均を上回った。「聞くこと」以外の領域において、全国平均を上回った。 ○特に、グラフや発表のまとめの文章など、「読むこと」の力が定着している生徒の割合が高い。 ●自分なりの考えを書くこと、会話の流れにそって文を書くことに課題がある。 ●正答率の分布を見ると、下位層がやや多いのが課題である。 ●今回は参考値で結果には反映されないが、「話すこと」の正答率が全国平均を下回った。基本的な表現を理解し、応答することに課題がある。	・授業において、英語を聞く活動の場面を増やす。 ・英語で互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を通して、自分の思いや考えを表現する機会を増やす。 ・普段の授業の中で、聞かれたことに対して適切な語句を強調して応答できるよう意識を向けていく。 ・授業や宿題で、少しまとまった文を書く機会を意図的に設ける。

(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



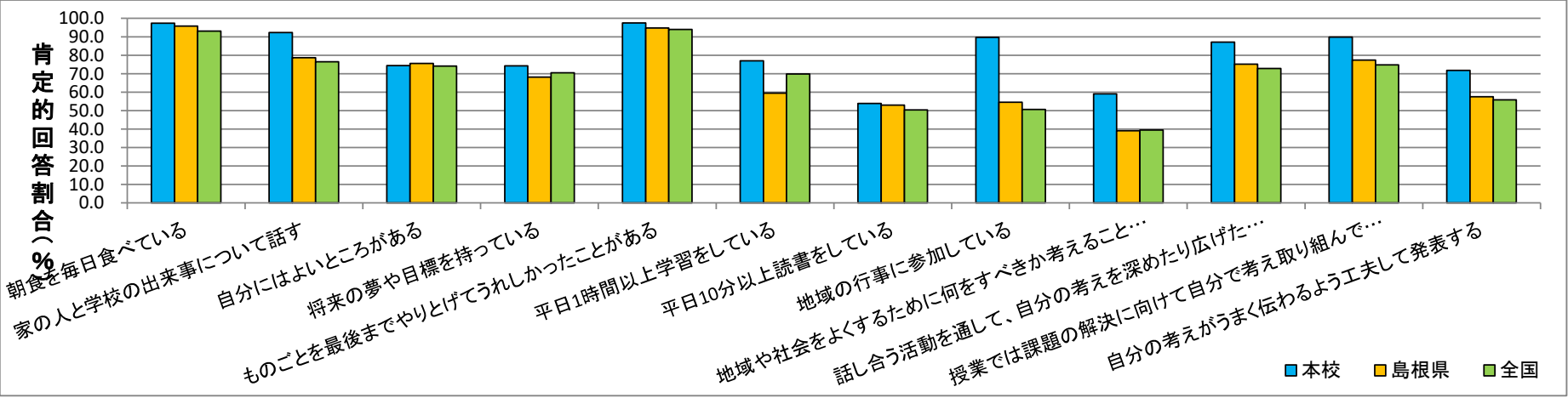
(2)生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策
下記の意識調査に対して、ほぼすべてについて肯定的回答が県や全国よりも高い。 ○地域社会などのボランティアに参加している生徒、家庭でコミュニケーションをとっている生徒の割合が高い。 ○話し合い活動を通して、自分の考えを工夫して発表していると感じている生徒や、問題解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいると感じている生徒の割合が高い。 ●平日に10分以上読書をしている生徒の割合が、他の項目と比べるとやや低い。 ●自己肯定感は県平均と比べてやや低い。	・地域のボランティア活動への参加や学校行事等の参加を通し、自分が役に立っていることが実感できるように、教職員や地域の方などの周りの人の声や思いを積極的に伝える。 ・学校図書館司書との連携を図り、本の紹介をするなど、読書に興味をもてる工夫をする。

(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・各教科担当と学年部が連携し、自主学習や基礎学力テストなどを通し、基礎・基本の定着を一層図る。 ・自分なりの思いや考えをまとめ、その考えを伝える場面を積極的に設けることで、学力の定着を図る。 ・授業で学んだことを他の学習で生かす場面を意図的に設定したり、授業と課題がつながる工夫をしたりして、生徒自身の意欲を高める。
--

(3)意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



【参考】

○平均正答率	本 校	松江市	島根県	全国
国語	75	73	73	72.8
数学	72	60	57	59.8
英語	59	54	53	56.0

受検者数 39 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受験者数をもって表示しています。